

「神に招かれた人々 I」

ルカ 2:8-20

【1】福音の啓示

貧しさに包まれたキリストの誕生を最初に知ったのは、当時社会の底辺を生きていた羊飼いたちであった。彼らは最も貧しい者たちであり、社会的な立場もなかった。しかし、神はこのような最も小さき者を忘れることなく、却って彼らをあわれみ、目をとめてくださったのである。

いつものように野宿で羊の夜番をしていた羊飼いたちを主の栄光が照らし、主のことばが語られた。この知らせは「民全体のためのすばらしい喜びの知らせ」(10)である。暗く落ち込んでいた世界に灯った一筋の光である。

この喜びの知らせとは、救い主誕生の知らせである(11)。この救い主は「あなたがたのために」生まれてくださったのである。

【2】主キリスト、その栄光

この救い主はイエスと名付けられた。イエスとは「神こそ救い主である」という旧約聖書の約束がこの方を通して実現するにふさわしい名である。御使いは、「この方こそ主キリストです。」(11)と救い主の存在を告げた。主とは、旧約聖書においてご自身を啓示されたヤハウェなる神である。キリストとは、神から特別な使命を受けた「油注がれた救い主」のことである。御使いが告げたお方は、当時世界の救い主と呼ばれたアウグストゥスではなかった。それは、人々が期待したキリストとは異なる在り方で与えられたことが告げられたのである。

この御方は小さな町の家畜小屋で布にくるまり飼葉桶に寝かされている

というのである。

御使いは羊飼いたちに一瞬だけキリストの真の在り方を現した。天の光景である(13-14)。

【3】神の招き

御使いたちが語り終えた後、彼らは直ちに行動に移った。ここに素朴にみことばに信頼する者の姿を見る。もし、しるしがなければ彼らはキリストの居場所を知ることはなかった。もし、御使いたちの啓示のことばを信じなければ彼らはキリストにお会いすることはできなかった。私たちも同様に、神が啓示してくださった神のことばによらなければ、そしてそのことばを信じなければ救い主にお会いすることはできないのである。

救い主はその誕生の瞬間から人々に受け入れられることはなかった(ヨハネ 1:9-11)。主の居場所はなかったのである。救い主誕生の出来事の前に私たちは悔い改めへと導かれなければならない。主を受け入れずに生きてきた日々を悔い、その生き方を改めるのである。「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。」(ヨハネ 1:12)

神は御子の誕生によって羊飼いたちの日常を変えた。神は「今日」という日を一変させるお方である。「今日、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。」(11)ということばを今日、受け取る者は幸いである。「今日」救い主にお会いできるからである。主なる神はあなたに会うことを待っておられる。みことばを聞き、それを受け入れる者たちは真の救い主にお会いし、神をあがめ、賛美しながら帰るのである。今日、その喜びに満たされるのである。